

【 第26回男子世界選手権 】

2019年1月10日～1月27日 開催地:ドイツ、デンマーク

試合結果報告 1 月 20 日 (日)

JPN	VS	ANG
14	前半	15
15	後半	17
29	合計	32

個人得点

名前	得点	合計
1	佐々木 亮輔	0
10	杉岡 尚樹	0
13	笠原 謙哉	0
15	部井久 アダム 勇樹	2
16	甲斐 昭人	0
18	成田 幸平	1
19	徳田 新之介	1
20	渡部 仁	5
21	土井 レミイ 杏利	5
24	信太 弘樹	4
25	元木 博紀	4
27	玉川 裕康	0
29	岡元 竜生	1
31	吉野 樹	1
33	東江 雄斗	4
44	門山 哲也	1
		29

戦評

第26回男子世界選手権大会ドイツ・デンマーク大会、日本の最終戦は23-24位決定戦、アフリカ代表アンゴラとの対戦となった。アンゴラはグループD最下位ながらアジア1位のカタールを倒すなど、台風の目になった存在である。

前半立ち上がり、今大会ほとんどの試合で日本の最初の得点をあげている渡部のロングシュートが決まり幸先の良いスタートを切った。しかし、その後は互角の展開。日本のディフェンスも笠原らで粘り強くプレッシャーをかけ、相手のロングシュートを守るが、中盤以降クロスプレーからのロングシュートを99番SIBOに的確に決められ、終盤に13対14と逆転を許す。その後、信太のカットインなどで反撃に出るが、前半は14対15の1点ビハインドで終了した。

後半5:1ディフェンスに変更し、センター門山・GK佐々木を投入。ディフェンスでより前にプレッシャーをかけること、シンプルな縦への攻撃を仕掛けていった。テンポのいいパス回しから元木、門山、部井久で得点を重ねるも、21番PESTANAの切れ味鋭いシュートや5番HEBOのクレバーなプレーで失点を許してしまう苦しい展開。これ以上離されると厳しい場面で、ディフェンスで激しくコミュニケーションを取る日本。GK佐々木も2本のカットインを止め、3点ビハインドをキープしたまま粘り強く食らいつく。しかしアンゴラは、5:1ディフェンスの裏を使う巧みなポストプレーや二次速攻を展開、日本は対応に苦しみ、残り10分には22対28と6点差に広がってしまう。それでも諦めない日本は、7人攻撃を仕掛ける中、土井や信太で追い上げ、残り2分2点差まで追い上げるが、時すでに遅く29対32の3点差で試合が終了した。

ワイルドカードで得た世界選手権へのチャンス。その最終戦を勝利で終えることができず、24位に終わり大変残念であった。しかし、この大会に向けたシミュレーションとして年末年始に出場したカップ戦や、本大会の予選リーグにおいてヨーロッパの強豪国相手にしっかりと戦い抜き、これまでの取り組みの成果を示せた。ただ大会期間10日間で7試合、世界の強豪国と戦う精神的・体力的なタフさ、選手層や戦術の徹底と変化への対応力に関して、経験が足りない面が垣間見えたのも事実である。シングルソン監督からは「この世界を知っているのは、ここにいる日本代表の我々だけなのだから、日本リーグやその他の大会において何らかのアクションを起こし、日本のハンドボール界に刺激を与えて欲しい」という締めくくりで本大会を終えた。試合後たくさん選手が涙していた。この世界選手権の思いは今後の戦いで見せてくれるだろう。

報告記入者 :

舍利弗 学